

試聴会・訪問記掲載

河口無線ゴールデンウイークオーディオ三昧報告(2019.5.5)

河口無線では、ゴールデンウイーク、お盆休み、年末年始の休日などに合わせてオーディオ三昧という催しを行っています。今回もゴールデンウイークに合わせて開催されていましたのでCDを持参して聴いてきました。

場所：河口無線 3F ハイファイディリティ試聴室

月日：4月27日(土)～5月6日(月)

時間：PM1：00～PM5：00

<使用機材>

試聴対象は以下の3システムです。

【第一システム】



アキュフェーズ モノラルパワーアンプ M-6200 ¥1,944,000 (ペア)



アキュフェーズ プリアンプ C-2850 ¥1,382,400



アキュフェーズ SACD トランスポート DP-950 ¥1,296,000



アキュフェーズ D/A コンバーター DC-950 ¥1,296,000



JBL ホーン型スピーカー Model-4367WX ¥1,555,200 (ペア)

【第二システム】



ラックスマン プリアンプ C-900u ¥1,188,000



ラックスマン パワーアンプ M-900u ¥1,188,000



エソテリック SACD プレーヤー K-03XS ¥1,058,400



タスカム ワードクロックジェネレーター (0.01PPM) CG-1000 ¥183,600



リン ネットワークオーディオプレーヤー AKURATE-DS-K ¥972,000



アンフィオン スピーカーシステム ALGON-7LS (ウォールナット) ¥753,840 (ペア)

【第三システム】

HANIWA システム (省略)

<使用状況>

当日のセッティング状況は、以下の写真のとおりです。



【第一システム】



【第二システム】

<試聴結果>

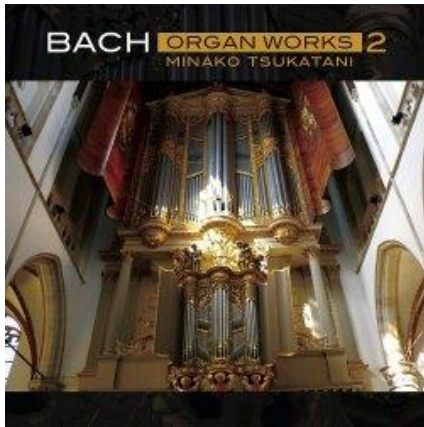
試聴は持参した CD により第二システムで行いました。

Ars Vivenali MRC021 Herbert Collum

J.S.Bach Toccata und Fuge d-moll BWV565

King Records KICC-1374 塚谷水無子

バッハ トッカータとフーガ ニ短調 BWV565



King Records KKC-5996 キアロスクーロ四重奏団
シューベルト 弦楽四重奏曲第14番ニ短調『死と乙女』



いずれの音源も、いかにも昨今のハイエンドらしい明晰な音がします。バッハのトッカータとフーガニ短調の Herbert Collum の演奏は、Sieberman のオルガンで弾かれ、塚谷水無子の演奏はシュニットガーオルガンで弾かれたものですが、両者の音質の違いは、明確に区別できます。シュニットガーオルガンの厚みのある音はカバーできていましたが、ミーントーンで調律された、Sieberman のオルガンの澄んだ音は、低域の量感是十分あるものの、高域については、その澄み具合が不足しているように感じました。

キアロスクーロ四重奏団の『死と乙女』は、別の曲の演奏を聴いてきたばかりですが、明晰な音はするものの、弦の細やかな質感の表現には届かない印象でした。第一システムと第三システムは、上記の音源には馴染まないようですので、試聴しませんでした。

以上